

リニモ沿線における愛知県の取組について

1. リニモの利用促進と沿線の活性化プロジェクトチームの設置について

市町の取組を支援する庁内体制を強化するため、従前の庁内組織を発展させ、「リニモの利用促進と沿線の活性化P T」及び「沿線活性化WG」を設置した。

目的：リニモ（東部丘陵線）の利用促進と沿線の活性化を進める。
設置：平成23年4月19日

リニモの利用促進と沿線の活性化プロジェクトチーム

リーダー：地域振興部次長
副リーダー：交通対策課長
メンバー：関係課室の長（7部1庁1委員会の28課室）

沿線活性化ワーキンググループ

WGリーダー：地域政策課長
メンバー：関係課室の長（6部1庁の21課室）

「主な役割」

- リニモの利用促進に係る事業の庁内における取組及び検討状況の把握とイベントやPR等の需要喚起策の検討
- 「リニモ沿線地域づくり構想」の推進

2. 「知の拠点」の整備について

○「先導的中核施設」（整備・運営：愛知県）

供用開始：平成23年度中

施設概要：地上3階建、鉄筋コンクリート造、延床面積14,896.43㎡
（研究室、実験室、計測分析室等）

職員・研究員等数：常駐100名程度、非常駐400名程度

（愛知県職員、（公財）科学技術交流財団職員、研究者等）

駐車場：来客用 54台

○「シンクロトン光利用施設（仮称）」

（整備：（公財）科学技術交流財団、科学技術振興機構、運営：（公財）科学技術交流財団）

供用開始：平成24年度（予定）

施設概要：地上2階建、鉄骨造、延床面積5,545.16㎡

職員・研究員等数：30名程度

駐車場：来客用 6台

3. 愛・地球博記念公園の施設整備について

○地球市民交流センター（平成 22 年 10 月 1 日供用開始）

- ・「交流」と「環境」をテーマに、博覧会の理念と成果を継承・発展させる核となる施設
- ・市民参加・交流の拠点として、様々な活動が行われている。環境や交流をテーマとした団体向けのプログラムやNPO団体等の提供による一般来園者向けのプログラムなども実施されている。

○こどものひろば

- ・「こどものひろば整備の基本的考え方」を策定（平成 23 年 3 月）（別添資料参照）
- ・民間事業者による整備を視野に入れながら、集客機能の充実・強化を図ると同時に、リニモの利用促進等につなげていく。
- ・今年度は基本設計を実施する予定。

○その他の施設

- ・健康スポーツ広場（多目的球技場、テニスコート、フットサルコート）、サイクリングコース（平成 24 年度供用開始予定）
- ・県民公園づくり空間（平成 25 年度以降供用開始予定）
→里山風景を再現した施設
- ・キャンプ場（デイキャンプ利用を中心とした施設、供用開始時期未定）

4. リニモを利用するイベントの開催について

【愛知県】

- リニモの森のスタンプラリー
- 夏休み・リニモ親子教室
- リニモ体験乗車&車両基地等見学会
 - ・平成 23 年 10 月～24 年 3 月の土休日に開催予定

【東部丘陵線連絡協議会】

- わくわく体験リニモツアー
- リニモ沿線ウォーキング
 - ・年間 3 シーズン（新緑、秋色、早春）、13 コースを実施。
 - ・次回は秋色ウォーキングを 10 月から 12 月にかけて 5 コース実施予定

5. 芸大通駅及び陶磁資料館南駅周辺の賑わい創出について

リニモ駅のうち、芸大通駅及び陶磁資料館南駅周辺を活性化させ、リニモの利用促進につなげていくために、駅周辺における賑わい創出手法を検討する。

- 芸大通駅周辺
芸術活動の場の整備手法を視野に入れて検討。
- 陶磁資料館南駅周辺
駅から陶磁資料館へのアプローチ道路において来館者を楽しませる手法を検討。